

麻生区区民会議 第10回地域交流・文化部会 議事要旨

- 1 開催日時 平成23年10月12日（水）午後3時00分～5時00分
- 2 開催場所 麻生区役所第2会議室
- 3 出席者 [地域交流・文化部会委員]
石井委員、植木委員、菅原委員、竹市委員、武濤委員、田中委員、
土井委員、柳島委員
[事務局]
安生企画課長、阿部企画課担当係長、川里
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事
 - (1) 調査審議課題について
 - ア 「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について
【報告事項】
 - ・「しんゆり・芸術のまち」づくりとして展開される各事業へのヒアリング調査結果のまとめと課題考察について、石井委員、武濤委員から報告された。一つ一つの取り組みを俯瞰した上でその共通点を把握し、これからやるべきと考えられる事を4つ（広報活動、連携、施設・設備関連、支援・協力（行政））提示された。**【主な意見等】**
 - ・今回の提示（資料）を基に、フォーラムでの発表、最終報告にどのような形でまとめていくかを考えたい。
 - ・「にぎわい」創設のための都市景観条例の見直しの提案部分がよくわからない。→映画祭では、許可が下りて多少の掲示をすることができたが、都市景観条例による制約のため基本的には駅前等での掲示は行えず、また、区役所の垂れ幕が指摘され、昭和音楽大学や青葉幼稚園の色も修正させられたこともある。→これらのイベントは「区民のためのまつり」でもあるのに、禁止事項により活動が制約されてしまうのはおかしいと思う。見直しを提案したい。
 - ・「芸術・文化のまちづくり」に限らず、景観の規制が非常に厳しいのは確かであるが、そのおかげできれいな、整った街が維持されていることも事実である。
 - ・基本は景観についての規制があるべきだろうが、例外事項や期間限定措置など、運用面を提言したい。
 - ・景観形成協議会では、小学校の壁の絵も許可を経て行われた経過がある。
 - ・きれいな街が維持されることと、その地に人が住んでの利便（にぎわい）との間にせめぎ合いがある。
 - ・区民まつりの主催は実行委員会、町内会・自治会で、行政中心ではない。→実行委員には「区民まつりは本来区民主体で行政はなるべく遠のいて行われるべきという理想型があった上で、行政よりも区民がもっと表に出て運営できれ

ばよい」という思いがある。但し、実態は区職員が大分関わっており、そういう事情で「区役所の職員の負担」に関する意見が出てきたようである。

- ・事業運営する上で、実行委員会方式自体を見直す必要があるかもしれない。可能ならば、実行委員が主体となって行政と協力してやりたい。
- ・実際、事務局（行政）抜きではできない部分もある。区民まつりなどの行事も、市や区が主体となってやらなければならない問題とも考えられないか。

【決定事項】

- ・今日の会議で出された意見も参考にしながら、次のまとめ（素案）づくりのステップへと進めることにする。

イ 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について

【確認事項】

- ・検討会の記録と合わせて、「資料3」の内容を見直した。その上で、まずは資料中の分類「Ⅲ」の部分について議論を深めていく。

【主な意見等】

- ・各取り組みの具体案について、最後の報告（提案）の中に掲載していく事が大方確認されているが、「Ⅲ 地域の絆づくり」についてどういう中身にまとめていくのかがはっきりしていない。
- ・「Ⅲ」部分については、新しい提案も含めて、既存のものが整理されていないのか、新規取り組みが実現可能なのか、事業展開の方法、どうしたら自治会にその気になってもらえるか、ということ議論したい。
- ・（前回の菅原委員からのレポート中にあるように）小グループ、サークルとの連携など、こういう風に取り組んだら「地域の絆づくり」に繋がるのではないか、という実例案も取り上げてみたい。
- ・運用面では資金が重要である。
- ・既存制度の活用部分に記載の「町内会提案制度」については、ほとんど手が挙げられていない（競争になるほど活気があるわけではない）ようである。
→事業予算として100万円程度で、平成23年度のこれまでの実績として2件挙げられている。
- ・行政が取り組み支援のための予算立てをしているのに、実際に活用例が伸びないのは、担い手がいなかったためか、それとも広報力が足りなかったためか。
→本制度は町内会対象なので、区役所から各町内会宛てに直接広報している。
- ・担い手がいなくと思われる。町内会について無関心な人が多い。広報は町会長を通して町会内に伝わっていると思う。いかに事業参加に率先して手を挙げてもらうか（やる気を起こしてもらおうか）が、一番の問題だろう。
- ・ささえあい事業展開の仕組みは、提案としてはなかなか良いと思うが、その前提として現実の状況はどうかのだろうか。
- ・担い手がいなければ、どうすればその担い手を作れるのだろうか。
- ・例えば、町内会などの組織の中で、意欲のある人に多少の予算と権限を与えて、新しい発想と新人の参加を促すようなこととしてはどうか。
- ・こうした現実を理解した上で、具体的な課題解決の取り組み案を考えていかなければ

ればならない。

- ・町内会の実情をきちんと知ったうえで、区民会議からの提案を考えたい。
- ・自治会に「ささえあい事業」のニーズはあるのだろうか。あるのならば事業提案として進めたいし、ニーズそのものがないのなら提案自体が不要となる。
- ・一個人（市民・区民）レベルとしてはそれなりのニーズがあるだろう。但し、その取り組みの受け手として、町内会単位ではどう考えるだろうか。
- ・活躍している退職者（シルバー人材センターなど）の組織に謝礼を支払い、ささえあいの取り組み（掃除、買い物等の家事手伝いや自転車パトロールほか）を実践してもらえるようなシステムができて、町内会等でももっと活用されてくればよいと思う。
- ・退職者に活動の場（町内会など）に来て担い手となってもらったとしても、担い手としてのスキルや資質を有し、ささえあいについての理解がなければ、そのまま地域の絆づくりに役立つことは限らない。
- ・優良な活動を行っている町内会3ヶ所（岡上、千代ヶ丘、新百合ヶ丘）の事例を報告に織り交ぜたい。
- ・ヒアリングを実施した3ヶ所は、古くから町内会組織ができあがっていたのに加えて、新しい住民も取り込んでうまく運営されている町内会である。区内のほとんどの町内会では、ここまでうまく内部の活動が回っていないと思われる。
- ・町内会のいい事例は、第2期区民会議の際も事例集として挙げているはずである。→但し、結果として多くの人に読まれていないので、更なる周知は必要だろう。
- ・大きな町内会ではできることも、小さな町内会でやるのは難しい、といった性格のものもあるだろう。小さな町内会でもさまざまなイベントなどができるよう工夫すれば、そこに人が集まって、人材の把握・発見とともに、隣近所の顔が見える関係作りもできるようになるのではないかと。我々は、その仕掛け部分を提案してみてもどうか。
- ・展開方法が現実的なものかどうか、自治会が手を挙げるまでになるのかどうか、運用方法や収支（費用）の形は果たして提案として妥当なのかどうか。
- ・小地域で担い手づくりをする際、盆踊りなどのイベントならば人も集まるだろうが、恒常的に携わるもの（高齢者・障害者の見守り・介護など地域福祉の活動や絆づくりの活動）となるとなかなか人が集まらないだろう。しっかりとした中心人物、（責任を持ってお金も扱うことができる）運営主体としての柱、取り組み関わる多数の派遣者の掌握、これらを包含する組織が必要となるだろう。
- ・麻生市民交流館やまゆりの実績として、「歌声喫茶」をやってみたい、というやる気のある人の声が挙がったことがある。
- ・活動内容が「趣味」ならば人は集まるかもしれないが、「（人の）世話」となると人が集まりづらいのではないだろうか。
- ・課題解決のための取り組みを進めたとしても、その経過観察などを我々が続けることはできない。行政の指導などをお願いするのだろうか。→行政に求めるのは難しいだろう。町内会が自分で考えることだろう。
- ・岡上町内会での取り組み事例として、グッドネイバースと連携し、町会がさまざまな情報を盛り込んだ手持ち冊子を作って住民に配布し、各団体・グループとの

繋がりを確保している。

- ・ 民生委員や各団体・グループについても町内会の中にきちんと位置付けられ、住民皆にその情報を公表し、繋がり・助け合い・ささえあいのためのシステム（機能）として位置付けて、周知できればよいと思う。
- ・ 町内会の活動については、行政から指示するようなものではない。区民会議からの提案（報告）を区長に提出し、区（行政）から町内会に伝えてもらう流れになるのだろうか。
- ・ 報告書などの冊子は、町会長クラスにしか届かないから、区民皆に周知するに至っていない。2～3ページの薄いものでも良いから、ダイジェスト版を全区民に配布するなど、広報の充実が必要である。
- ・ 区民会議の報告が、具体的に区（市）の事業・政策等にどのように反映され、あるいは取り上げられた現場で消化されるのか、今まで疑問であった。
- ・ 1人1人の有能な活動者（さまざまな団体・グループの活動主体）が地域に潜在している中、彼らが有機的に繋がっていけば、具体的なささえあい実現へのステップとなるのではないか。
- ・ 規模が大きな町内会での話とは別に、小さな町内会についても展開方法等を考える必要があるのではないか。
- ・ 大きな町内会でもすべてがうまくいくとは限らない。岡上町内会の事例では、町内会をさらに4つに区分けして活動している。
- ・ 地域福祉の分野は、民生委員を中心に助け合いがされており、その負担はかなり大きなものがある。彼らを側面支援するための新しいサポーターなどを募集する、という動きはどうだろうか。
- ・ 岡上町内会のような組織を作ることができれば、地域でのささえあいもうまくいくのだろう。但し、同じ地域内で、旧住民に対して新住民（新しいマンション等への転入者）が「我関せず」の反応ではうまくいかない。
- ・ 古くからの住民組織がしっかりしていればよいかというと、昔からの動きに対して変化しづらい、という悪い側面もある。
- ・ 百合ヶ丘勸交会では、地域のいろいろな活動を育てようという動きもあるようだ。
- ・ 遊遊クラブ（趣味）への助成なども、人と人とお互いに顔を合わせ、連帯感を醸成するのに役立っていると言えるのではないか。
- ・ 1つの試みとしての提案を、具体的な先行事例も交じえながら、これからの展開予想図として示してみてもどうか。
→その際、土井委員の報告（提案）を基にまとめていった方が早いだろう。
- ・ すでに区社協のような地域福祉を支援する組織があり、区社協や地域包括支援センターとも連携して活動している町内会もいくつかある。各町内会単位で、事業を推進する組織を作るのは難しいのではないか。既存の組織＝区社協があるのだから、いかにそれらを活用してもらうかを考えればよいのではないか。
- ・ 小さな単位での絆づくりは、区社協でもできないし、町内会でもできないとしたら、どうしたらよいか。
- ・ 町内会で、絆づくりの取り組みを行うのが無理かどうかを判断する前に、今提案しようとしているものが、我々の目指すところ、理想型なのだろうか。

- ・どこの町内会でも単独で事業展開をするのはなかなか難しい。「ささえあい」という趣旨で展開するとしたら、「ささえあい」の土壌をどう作るか、連帯の地盤を醸成するという視点で展開方法の検討を進めてはどうか。
- ・区民会議からの提案として、(資料中にある)「④新規の自治会等に事業展開が出来るように町会連合会に働きかけを担って貰う」という内容を盛り込むのは難しいのではないかな。
- ・既存の制度を活用した事業の推進についての提案で、「ボランティアグループ等活動助成(社協)」はさまざまな活動団体への補助を目的としており、そこに区内の町内会が手を挙げ始めたら、区社協でも制度の維持制御ができず、助成制度自体が破綻してしまうのではないかな。
- ・土井委員の案は、ささえあい事業の主体を身近なグループ(=町内会)に置いている。それに対して、各委員からは町内会が主体となるのは難しく、区社協等を利用する方法がいいのではないかな、という意見もあるようである。利用するための手段やお知らせ方法を工夫する必要があるのではないかな。また、町内会そのもので実施するとしたら、運営費用もその担い手も必要となってくる。
- ・町内会などよりももっと小さな単位、ご近所での展開を考えていた。
→「事業」というよりは、ご近所でのささえあい、助け合いのイメージである。
- ・町内会や民生委員等の役割が記載された、あさお福祉計画も確認されたい。
- ・町内会で自主的にささえあいをしてもらおうのか、それとも区社協などの地域でのささえあい支援を有効に活用してもらおうのか。
- ・町内会・自治会ではなく、もっと小さな規模の班・グループにおける自助・共助が、ささえあいの最小単位としてある。それでは、町内会の役割はどうなるかな。
- ・町内会には、管轄内の各組織を繋げていく役割が期待されるのではないかな。
- ・町内会でやること自体、問題はないのかな。
→基本路線は間違っていないと思うが、今すぐ町内会で何かができるかな、というとなかなか難しいだろう。「〇〇の期限までに町内会で事業を展開する」というのは早急すぎで、まずは方向性を確認した上で、町内会でもできる取り組みをステップとして設ける必要があるだろう。その上で、例えばNPO法人を立ち上げるなど、事業展開の拡大を図る、という順序になるのではないかな。
- ・いわゆる「絆方式」、まずは人間関係を小さなグループで作ることが肝要である。そのために町内会ではまず、住民に対して、困ったときにどこに助けを求めればよいのか、などの情報を示し、繋がりを作ることができるだろう。
- ・町内会で何かをやるとしたら、まずは隣近所で仲良くしてもらい、人と人との絆を深めてもらうところから始まるものだろう。
- ・今回の意見交換を踏まえて、土井委員の案をまとめていくことができるのではないかな。目指すところに近づきつつある団体(町内会)が現在全くないのなら、提案も夢物語で終わってしまうが、実際にいくつかの町内会で近い取り組みがなされているなら、実現可能な形を模索し、区民会議の報告に盛り込んでいくことができるだろう。
- ・既存の区社協の制度などは、住民がお互いに助け合うことが根底にあり、町内会に組織を作るという話ではない。区民会議からの提案は、もう少し現実的なところ

ろで落ち着かせたい。

- ・提案として方向付けを形に示しても、無駄になってしまうのだろうか。
→理想型に行き着くまでには、いくつかのステップを踏む必要があり、まずは現実的なところからまずは進めるべき、ということである。現状、展開の方向付けについては、希望（理想）として抽象的にまとめてみてはどうか。
- ・区社協、地域包括支援センター、ボランティアなど、活用できる支援組織を紹介し住民皆に知ってもらうとともに、町内会の中で団体と団体、人と人を繋いでいく。また、その手法としては、市政だより特別号の発行やガイドブック（保存版）作成などの提案にも連なっていく。
- ・事業展開の資金については継続検討が必要である。
- ・ささえあいを事業として町内会でやること自体に反対である。すでに区社協でも事業見直しの取り組みを独自に進め始めており、また有料化での事業展開は区社協の既存の展開と乖離している。但し、ご近所の繋がり、絆づくりとしてのささえあいには同調する。
- ・町内会によっても、ささえあいについて意識しているところとそうでないところがある。そのため、このような取り組みを進めてみてはどうか、という提案は各町内会への意識付けの意義があるのではないか。
- ・提案をまとめていく際は、細かなことを書きすぎても縛り付けるだけなので、ある程度大きな提示にしたい。
- ・報告をまとめるに当たっての形式はあるのか。
→場合によっては企画部会にも諮る必要があるため、今は様式は設定しない。

【決定事項】

- ・ささえあい事業展開については、目指す方向性として土井委員の提案の有用な所を拾い出しながらも少し抽象的な表現を用い、それを実現していくための1ステップとして、具体的な提案（例えば、小グループでの関係作りのイベントなど）を盛り込み、まとめていく。
- ・次回（検討会）までに、各自が提出済みの取り組み提案（報告）を、さらにまとめの素案として修正して持ち寄り、全員で内容の確認と意見交換、修正による共有を図りたい。

ウ 「第2回区民会議フォーラム」について

- ・企画検討は、次回検討会に持ち越しとする。

(2) その他

【決定事項】

- ・次回、10月20日（木）17時から、企画課裏スペースにて検討会を開催する。検討会では、①第2回フォーラムの企画について ②「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」の各取り組み提案のまとめ（素案）についてを扱う。その際、当日の進捗状況によっては、さらにもう1回検討会を設けるものとする。
- ・第11回部会は、11月7日（月）17時30分から、麻生区役所第3会議室で開催する。